

一般演題 教育・その他 OP8-1

当院における高気圧酸素療法の教育体制

○西山和芳¹⁾ 兵藤好行¹⁾ 谷川祐樹¹⁾ 菅原 元²⁾
世古口 英²⁾ 金子鎮二³⁾

- 1) JA 愛知厚生連豊田厚生病院臨床工学室
- 2) JA 愛知厚生連豊田厚生病院消化器外科
- 3) JA 愛知厚生連豊田厚生病院循環器内科

【背景】

高気圧酸素療法（以下 HBO）の診療報酬改定後、当院での治療件数は年々増加傾向であるが、一般に HBO はメジャーな治療であるとは言い難い。養成校並びに臨床工学技士国家試験においても HBO に関する教育や出題数は十分であるとは言い難く、臨床実習の場においても HBO 装置を保有する病院の少なさから実習を行うことのできる学生は限られる。実際に臨床実習において全ての学生が HBO の実習を行った養成校は全体の 16% であるというデータも報告されている。その為、卒後 HBO 業務に携わる臨床工学技士は現場でその知識のほとんどを習得するといっても過言ではない。当院においてもその傾向はあり、治療件数の増加と共に卒後教育の重要性は年々高まってきている。

【当院の状況】

当院は川崎エンジニアリング社製の HBO 装置 KHO-2000S を 2 台保有しており、病院休診日も治療の対応を行っている。在籍している臨床工学技士は 2024 年 6 月現在 22 名で、全てのスタッフが業務に携わる可能性がある。その内入職より 3 年未満の者が 6 名となっている。背景でも述べた通り治療件数は年々増加しており、診療報酬改定前は 500 件に満たなかった治療件数だが、昨年度は 1,750 件と過去最高の件数となっている。

【教育体制】

当室には高気圧酸素治療専門技師が 2 名在籍しており、その 2 名を中心として HBO の教育を行っている。教育期間は 2 カ月とし、大項目 8 項目、全項目 115 項目より構成されたチェックリストを用いて教育を行っている。教育期間中は日々の担当者がチェックリストに沿って教育を行い、2 カ月経過時点でチェックリストの進捗と業務状況を専門技師が確認し、問題が無ければ一人での業務を可としている。

【課題と対策】

チェックリストには緊急減圧に関する事項もあるが、実際の臨床で緊急減圧を行う場面は少なく項目が達成できないことがあった。対策として、緊急減圧弁の操作を実際に行うという訓練を施行し、経験の少ないスタッフであっても緊急時の対応が行えるようにした。

【考察】

HBO 装置の操作は機種にもよるが自動で加圧から減圧までを行ってくれるものが少なくない。ゆえに経験の少ないスタッフでも治療自体は可能であるが、正しい知識を有していなければ有事の際に対応することが難しいばかりか、思わぬ事故を引き起こしかねない。養成校での教育は減少傾向である為、スタッフの教育は各治療現場で行うことが必須である。専門技師も少ない現状の中で治療を行うスタッフが安全な治療を提供できるようにするため、今後も均一化された教育体制を確立していきたい。また、患者の急変などにも迅速に対応をできるよう緊急時におけるシミュレーションなども定期的に行っていきたいと考える。